

3本の竹

大正中だより第1号
2020/7/1

2020年度のご挨拶【学校再開にあたって】 PTA会長 石口嘉美

つい先日まで朝晩の冷え込みが辛く感じましたが、時間が過ぎるのは早いもので、いつしか初夏の日差しが眩しく感じるようになりました。

2020年度の幕開けは、新型コロナウイルスの影響により、入学式を終えると同時に学校は休校となり、長い自粛の日々を過ごすこととなりました。お子さんだけでなく、保護者の方々も体調を崩されたり、モチベーションが下がったりと、憂鬱な日々を過ごす方も多かったと思います。

5月の緊急事態宣言解除により学校は再開となりました。勉強の遅れも気になるところではありますが、「体あっての物種」という言葉もありますように、まずは体調を戻すことに専念していただき、体調管理をしっかりと行っていただきたいと思います。

申し遅れましたが、会員の皆様には日頃よりPTA活動にご協力とご理解を頂き、誠に感謝申し上げます。本年度も昨年に引き続きPTA会長を仰せつかりました石口と申します。小さなことからコツコツと頑張りますので宜しくお願ひ致します。

昨年度、大正中学校は名誉ある賞を頂きました。

前任のPTA会長仲川久仁子さんと向本校長をはじめとする大正中学校の教職員一同、そして地域の方々のご尽力により「文部科学大臣賞」を頂きました。この賞は、一人の人間がいくら頑張っても、もらえるものではありません。「家庭」「学校」「地域」が協力し合い、1つの同じ目標に向かい取り組んできた「取り組み」に対し、表彰されました。

【継続は力なり】

「文部科学大臣賞」をもらうきっかけとなった取り組みは現在も続けています。
「土曜塾（今年度より、大正サタスタ）」「合格knight-work」「中学生友の会」良いことは次の世代に残していくかなければなりません。先生だけに教育を押し付けるのではなく、「家庭」「学校」「地域」が連携し協力し合い、勉強する習慣を子どもたちつけていきましょう。

【三本の竹事業】

昨年度より「家庭」「学校」「地域」が連携し取り組む事業に「三本の竹事業」と命名し、活動を続けてきました。「三本の竹事業」とは子どもの学力を「一本の樹」に見立て、その成長を三本の竹に見立てた「家庭」「学校」「地域」の三者で支えて行こうというものです。

「樹」にも色々な種類がありますが、勝手に育つ「樹」はありません。勝手に育っているように見えるだけで「樹」が成長するためには、「太陽の光」と「適度な水」と「肥えた土」が必要です。

要です。「家庭」「学校」「地域」が「太陽の光」「適度な水」「肥えた土」の役割を果たせたならば、樹に見立てた子どもたちの学力は必ず向上するはずです。

そして、子どもたちが中学卒業という義務教育終了を迎える時に、進学、就職とどちらを選択しても「大きな幹を持つ大樹」に育っていただきたいとの願いが込められています。

【家庭での学習の大切さ】

某大学の教授のお話ですが、勉強が好きと答える子どもの多くは、小さい頃から家庭学習で勉強する習慣がある家庭が多いそうです。あくまでも統計学ですが、実際の調査が行われた結果です。

小さい頃から勉強をするという習慣をつけることで、勉強しないという事に違和感を覚えるようになるそうです。子どもは人であり、樹のような植物とは違います。ただ単に物や時間を与えるだけでは思うように成長してくれません。どのような思いを込め、接していくかが重要だそうです。私たち保護者が子どもたちと目線を合わせ、共に歩む姿勢が必要なのかもしれません。その為には、私たち保護者は、子育てや仕事で忙しい中においても、子どもの将来のために、きっちりとした躾をして行く必要があるのではないでしょうか。

そのような日頃の積み重ねが人格形成に大きな影響を与えると考えられているそうです。私はこの「三本の竹事業」を大正中学校という小さな枠組みで考えるのではなく、小学校、幼稚園、保育所も含めた校区全体で取り組むべき事業と考えています。

【やる気の大切さ】

知性や教養は、日頃の積み重ねにより身に付いて行くものです。身に付いたことは、決して邪魔になることはないでしょう。その努力は必ず、自分自身の心や器を大きくしてくれるはずです。知識が豊富ということは、何事にも、冷静に対応できる「分析力」が身に付き、結果として、良い方向へと導く「思考力」「判断力」へと繋がります。

人は一人では成長できません。そしてある程度の競争心を持ち、切磋琢磨しないと思うようには成長しません。「知識」や「技能」は教えてもらえば身に付きますが、目に見える出来栄えであって、本当に必要な物は、「思考力」であり、「判断力」であり、「表現力」といったもので、自らが考え「解決に導く力」を身に付けることが必要ではないでしょうか。

それを得るために「意欲」や「関心」といった目に見えない力「やる気」が自分の中に芽生えないと話になりません。この目に見えない力を身に付けていただくことが、「三本の竹事業」の最大の目的でもあります。

このような考える力《自ら考え方事を解決に導く力》を身に付けることができれば、子どもたちがこれから的人生を歩んで行く上で、必ず良い方向に進んで行けると言えるでしょう。

子どもたちとともに、今をどのように過ごすかということを、私たち保護者も共に考えましょう。

そして私たちPTA会員も、地域として、「三本の竹事業」に関わって行きましょう。



家庭と学校と地域を結ぶ【三本の竹事業】

大正「学び力」育成委員会

会長 仲川 久仁子

一人一人が大切にされている地域コミュニティーづくりに向け、家庭・学校・地域・PTA が一つになり、お互いに連携・協働し子どもたちを支え育てましょう！

[保護者や地域が参画]

大正「学び力」育成委員会は、保護者や地域が『学校運営協議会』という場において、学校の教育活動などに意見を述べるとともに、家庭・学校・地域が学校の現状や課題についての共通理解を深め、連携・協力し、学校運営改善のために取り組んでおります。今年度も、保護者や地域が学校関係者とともに意見交換を行い、学び合いたいと思っております。

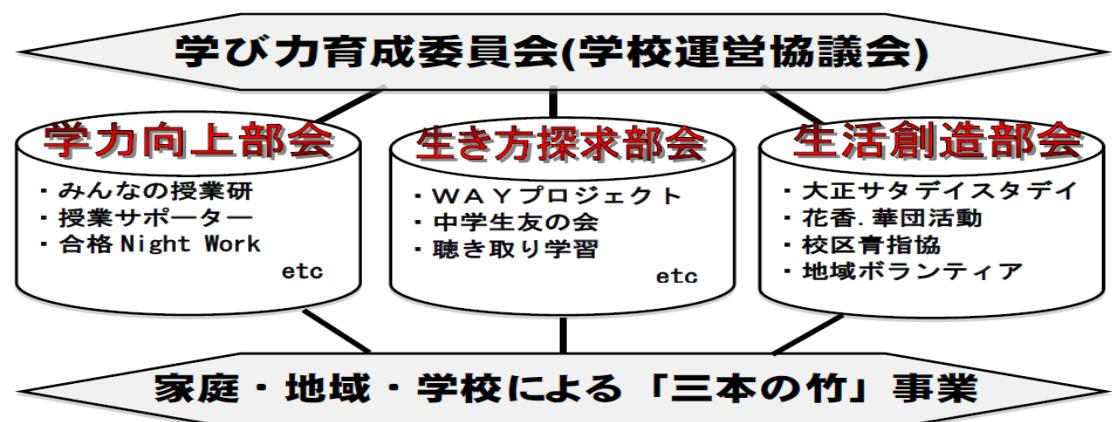
[家庭では]

親は、「子どもから逃げず」向き合う。子どもが成長する上で一番大切なのは、親子間の「信頼」です。信頼し合うためには、親子間で互いの意見や立場を尊重し合う関係になることではないでしょうか。

逆に、親が子どもや子どもの抱える課題から逃げたりすると、親子間の関係がギクシャクしたり、会話が断絶したりしがちです。子どもとの日常的な会話や学校生活に関わる話をするこことを心がけ、子どもから逃げずに向き合おうと努めることが大切です。

[道徳の授業について]

今年度から道徳の授業改革が本格的に始まり、お忙しい中、向本校長自ら教室で授業をされ、私も何度も拝見させていただいております。子どもたちも真剣に聴いていましたし、時には校長先生がギターを弾かれて、みんなで歌を歌ったりして、校長先生の授業に楽しそうに参加していましたよ！



[学力向上部]

- みんなの授業研・・・今年度も年6回開催予定ですので、是非ご参加いただき、ご意見をいただきたいと思います。
- 合格 Night Work・・・受験がいよいよ間近に迫ってきた2学期後半から、放課後学習会を開催します。PTA や地域の方々が生徒に頑張ってもらいたいと、夜食のおにぎりやカレーを作ったりしていただいている。

[生き方探求部会]

- WAYプロジェクト・・・昨年度から道徳の授業づくりに向け、木曜日の19時より、校長先生や教員、石口PTA会長や地域の方々、他校の教員、大学の先生などたくさん参加されています。ぜひ、保護者の皆さんもご参加ください。
- 中学生友の会・・・生徒みんなでお話ししたり、ボールで遊んだり、テスト前には勉強をしたりと、生徒・先生・地域ボランティアの方が一緒にやってつくる活動です。保護者の皆様方も、ぜひご参加いただければと思います。よろしくお願ひいたします。
- 聴き取り学習・・・ハンセン病元患者の方から話を聴かせていただいたり、また、先輩や自治会長さんにも学校に来ていただき、講演をしていただいたりしております。

[生活創造部会]

- 大正サタディースタディ・・・毎週土曜日9時から11時まで、学校図書館で受験に向けた学習会を実施しています。地域ボランティアの方も協力していただいている。
- 華団による花香活動・・・生徒と地域ボランティアの方々とで、学校や駅、公民館、市役所などにプランターに植えた花を届けています。
- 校区青指協との協力・・・教員、PTA、地域ボランティアの方で祭りの巡回指導や安全指導に協力していただいている。

たくさんの取組・活動へのご協力、ありがとうございます。申し遅れましたが、会員の皆様には日頃よりPTA活動にご理解とご協力をいただき、誠に感謝申し上げます。

PTA会長である石口さんには、中学校PTAと小学校PTA、小中管理職とで、お互いの学校の取組など意見交換していただき、校区全体で「三本の竹事業」を取り組むべき事業と考えていただいております。

どうか皆様も、積極的に関わっていただきたいと思っております。